

海外安全対策情報（2015年4月～6月）

在サンクトペテルブルク日本国総領事館

1 社会・治安情勢

サンクトペテルブルク市及びレニングラード州の社会・治安情勢は、ロシア国内全体から見れば比較的安定していますが、ウクライナ問題の経済制裁、ルーブル安や原油価格低迷等の経済的要因が市民生活にも影響し、各種抗議行動や民族主義団体等による集会・デモが行われ、治安当局による参加者の拘束も時折報じられています。

また、ナショナリズムの高揚を背景に、異民族排斥主義的な風潮も一部に見られます。犯罪の対象は、主に中央アジアや北コーカサス等の出身者ですが、邦人の皆様も警戒が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 一般犯罪情勢

外国人観光客を狙ったスリ・置引き・強盗等の被害が、公共交通機関内、有名観光地やネフスキー大通り等で発生し、邦人も被害に遭っています。特に最近、路上歩行時、公共交通機関への乗車及び降車時、ショッピングモールや各種商業施設からの出入時等に、複数人で取り囲み身動を封じて貴重品類を強奪する手口の強盗の被害に邦人が遭う事例もあることから注意が必要です。

(2) 一般犯罪統計

国家統計庁の発表によれば、今年1月から5月までのサンクトペテルブルク市及びレニングラード州における犯罪認知総件数は22,396件（前年同期比92.7%）で、内訳は以下のとおりです（注：括弧内は前年同期比）。

殺人及び同未遂	77件（61.1%）
重度傷害	221件（101.8%）
強姦及び同未遂	20件（71.4%）
強盗	298件（105.7%）
略奪	929件（82.9%）
窃盗	8,129件（86.3%）
詐欺	1,087件（91.0%）
粗暴行為	38件（74.5%）
薬物の違法流通	5,851件（97.4%）

(3) 邦人被害事案

今年に入り当館が認知した邦人被害事案は、未遂も含めて合計15件です。うち、今期4月から6月までに11件が発生しており、内訳は、強盗2件、置引き2件、スリ7件です。

ア 強盗2件

- (ア) 5月中旬、午後10時30分頃、旅行者2名が、ネフスキー大通りにある書店「ドム・クニーギ」の土産物売場を見て出口から出ようとしたところ、4～5名の中央アジア風男性らに取り囲まれて全く身動きが取れなくなり、1名が背負っていたザック内から財布を、もう1名が首掛けのカメラからレンズを外されて奪われました。
- (イ) 6月初旬、午後8時15分頃、旅行者1名が、ネフスキー大通りで4人組の男性らに突然囲まれて身動きが取れなくなり、抵抗したものの歩道上に押し倒され、ズボンの後ろポケットから財布を奪われました。

イ 置引き2件

- (ア) 4月下旬、日中、語学留学生が、ネフスキー大通りにある「バーガーキング」に入店しバックを席に置き注文に行ったところ、バッグを見ていた友人が、背後に投げ込まれた紙片に気をとられ、目を離した隙にバッグを盗まれました。
- (イ) 6月下旬、午後3時頃、出張者が同行者2名と共に、ネフスキー大通りにある「マクドナルド」にてバッグを左脇椅子上に置いて食事中、右側から新聞を広げ何か尋ねる仕草をする初老の男性に話しかけられました。男性が立ち去った後、バッグが開いているのに気がつき、確認すると中から貴重品ポーチが盗まれました。

ウ スリ7件

- (ア) 4月下旬、午後7時頃、出張者が、地下鉄「マヤコフスカヤ」駅にて乗車しようとしたところ、混雑する車内に押し込まれました。下車後、上着の内ポケットに入れていた財布が盗まれたことに気がつきました。
- (イ) 5月上旬、日中、在留邦人が、エルミタージュ美術館の混雑する中で子供に気をとられ、気がつくともバッグのチャックが開いており、中から財布が盗まれました。
- (ウ) 5月上旬、日中、旅行者が、イサク聖堂のチケット売場で入場料を財布から現金を取り出して支払い入場しました。聖堂の見学を終えたところで、クレジットカード会社から高額利用の問い合わせがあり、確認したところバッグ内から財布が盗まれたことに気がつきました。

- (エ) 5月上旬、午後2時頃、旅行者が、イサク聖堂の入場料支払い列に並んでいたところ、若い女性に突然足を踏まれて気をとられているうちに、反対方向から男性にショルダーバッグを素早く開けられて中から財布を盗まれました。
- (オ) 5月下旬、午前9時30分頃、旅行者が、ネフスキー大通りを歩行中、土産売りの男性に声をかけられました。断れずにいたところ、突然背後に土産売りを追い払うようなそぶりを見せる男性2名が現れ、3人に囲まれる形でしばらく付きまとわれました。道路向かいの銀行に逃げ込み、両替のため後ろ掛けに所持していたバッグを開けたところ、財布が盗まれたことに気がつきました。
- (カ) 6月中旬、午後2時頃、旅行者が、地下鉄「センナヤ・プロシャジ」駅から両手に旅行カバン等を持って混雑する車内に乗り込むと、両側から旅行カバン等を引かれて注意を逸らされました。「ゴスチヌィ・ドヴォール」駅で降車すると、腹側のウエストポーチが開いており、中から財布が盗まれたことに気がつきました。
- (キ) 6月下旬、午後7時頃、在留邦人が、帰宅のためネフスキー大通り「アドミラルチェイスカヤ」地下鉄駅付近バス停から22番線トロリーバスに乗りました。車内中央付近にて、中央アジア風の男性らに囲まれ注意していたところ、男性らが降車する際に違和感を感じました。確認したところ、右ポケット内の鍵とベルトを結束していた紐が切られていることに気がつきました。

(4) 邦人以外の被害事案

ア 殺人

- (ア) 5月上旬、市内クラスノセルスキー区のペチェルゴフスコエ通り沿いのドウデルゴフスカヤ運河で、赤色トランクに詰められた頭部及び手足のない地元30歳男性のバラバラ全裸死体が発見されました。ほどなく、ビニールで巻かれた頭部及び両手が近くで発見されましたが、足は見つかっていません。後日、マカロフ様けん銃と弾倉が入った袋も付近で発見され、殺人容疑で捜査中です。
- (イ) 5月下旬、午前3時頃、市内フルンゼンスキー区の路上で地元男性同士が口論となり、一方が外傷性けん銃を命中させた上、刃物で刺して34歳男性を殺害しました。被疑者は、後刻逮捕されました。

イ 強盗

- (ア) 4月中旬、午後0時0分頃、市内クラスノグヴァールジェイスキー区のビジネスセンター内で、2人組の男性が64歳の男性を暴行の上、12,500ユーロ、1,400米ドル、40,000ルーブルが入ったカバンを奪い逃走しました。
- (イ) 4月下旬、午後6時30分頃、市内中央区の路上にて、覆面をした3人組の強

盗が、通行人女性の顔に催涙ガスを噴霧し、女性が所持していた約790万ルーブルの入ったカバンを奪い逃走しました。

- (ウ) 5月上旬、午後9時50分頃、市内カリーニンスキー区の集合住宅中庭にて、17歳少年がエアガンで二人の13歳少年を脅して携帯電話を奪い、後刻逮捕されました。
- (エ) 5月中旬、午前5時頃、市内ヴィボルグスキー区の集合住宅にて、住人女性が呼び鈴を鳴らされドアを開けたところ、二人組の男がナイフを突きつけながら押し入り、3万2千ルーブル及び貴金属を奪って逃走しました。後日、無職の移民男性2名が逮捕されました。
- (オ) 5月中旬、午後0時0分頃、市内ヴィボルグスキー区の地下鉄駅出口にて、28歳女性が60歳女性をひったくり目的でいきなり突き飛ばし転倒させ、さらにバッグを手放そうとしない被害者に対し足で頭部を蹴り続けていたところ、駅員が駆けつけたため逃走しました。被疑者は、後刻逮捕されました。
- (カ) 6月上旬、午前11時30分頃、市内アドミラルチェイスキー区の路上にて、28歳男性が54歳女性をナイフで刺してバッグを奪いましたが、付近の民間警備員により逮捕されました。
- (キ) 6月中旬、午後2時30分頃、市内中央区の交差点にて覆面をした二人組が、停車中の被害者車両に駆け寄ると、窓ガラスを叩き割り、運転手の頭を押さえつけて車内から約50万ルーブル在中のバッグを奪い、犯人の車両は西方のモスクワ大通り方面に走り去りました。
- (ク) 6月中旬、午後1時30分頃、市内コルピンスキー区の路上にて、白手袋をした北コーカサス系移民の4人組が、警備員付きで現金移送中の工場出納係女性の顔面に催涙ガスを噴霧し、約210万ルーブル在中のバッグを奪い車両で逃走しました。
- (ケ) 6月下旬、午前3時頃、市内カリーニンスキー区のグラジュダンスキー・プロスペクト地下鉄駅付近で、帰宅のため白タクに乗った女性警察官が運転手にバッグを奪われ逃走されました。
- (コ) 7月上旬、午後5時頃、市内カリーニンスキー区の複合商業施設「アカデムパルク」内にある宝石店で、客を装った北コーカサス系の二人組が隙を見て店員から金のネックレスを奪いました。通行人が逃走を阻止しようと犯人の一人に足払いをかけるも、二人目がけん銃を通行人に発砲して逃走しました。通行人に幸い弾は当たりませんでした。現場で空薬莢が発見されました。

ウ 強姦

6月上旬、午前3時20分頃、市内クラスノセルスキー区の交差点でタクシーに

乗った女性が、帰宅の意に反してレニングラード州ロモノーソフ区まで連れさられた上、スタンガンで脅されて強姦されました。被疑者は、後日逮捕されました。

エ 強制わいせつ

5月下旬、午後3時頃、市内沿海区の住宅敷地で、何者かが住人の12歳少女に対し強制わいせつ行為を行い逃走しました。

3 テロ・爆発事件発生状況

2月上旬、店側の不適切な対応で、万引き容疑にて連行された81歳女性が警察署で死亡した事案を受け、系列店を含む市民の不買運動が広がる中、ウクライナ東部発信元の自称「デリンジャー・チーム」なる者らから爆破予告がありました。店側と同チーム関係者の接触後、一旦は爆破予告が終息したものの、再度5月下旬ころから、同チームを名乗る者らがサクトペテルブルク市内各所のショッピングセンターに対する爆破予告をほぼ連日のように寄越し、その都度避難及び爆弾捜索が行われています。さらに、7月上旬頃からは、市内中心部にある外資系複合デパート「ガレリア」に対し爆破予告電話が相次いでいます。

なお、これまでのところ、本物は発見されていませんが、時限装置の付いたそれらしい構造物も発見されています。この際、確実な避難指示を行わないまま警察が捜索をしていたため批判報道がなされています。このような中、爆破予告事案に巻き込まれる恐れ、さらには実際の爆発事件が発生する危険性がないとも言えませんので、注意が必要です。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

特になし。